

# Japón Argentina 会報

No. 24

20 de Abril, 1999

## 主な話題

- 「秋篠宮文庫」が  
生まれる ..... 1
- 100年まえの日本觀 ... 2
- インタビュー：  
キアラディア新大使... 3
- 「シャンパン・タイプ・  
ワイン」がブーム ..... 6
- タンゴはなお  
燃えるか ..... 7
- すわ火事？  
停電に抗議 ..... 7
- タンゴへの誘い ..... 9

## ブエノスアイレス日亞 学院に「秋篠宮文庫」 修交100周年記念に11月30日オープン



日亞学院を訪問された秋篠宮殿下同妃殿下—1998年10月

日本アルゼンチン修交100周年を記念するモニュメントを、後世に残すことが出来れば素晴らしいことだ。そして、それが日本とアルゼンチンの将来を担う子供たちに役立つものであれば、もっと素敵だ。

そんな願いから、日本アルゼンチン協会が企画をすすめ、ブエノスアイレス日亞学院に「秋篠宮文庫」が誕生することになった。これは世界で初めての文庫。現地からは「夢が現実になった。文庫が創設されれば、永久に活用し守っていきたい」とのコメントが寄せられている。

秋篠宮殿下同妃殿下は昨年9月、ブエノスアイレスの大統領府カサ・ロサーダで催された修交100周年記念式典にご出席になり、その翌々日、ブエノスアイレス日亞学院をご訪問になった。幼稚園から中学の児童、生徒600名の熱烈歓迎のなか、中等部校舎完成記念プレートの除幕式にご臨席された。それを記念して同学院の図書室の一角に、秋篠宮さまのお名前をいただいた文庫を創設しようということになった。

この文庫は日本の皇室、歴史、文化を紹介する図書と映像で構成されるもので、その中核になるものは、昨年

はるかな友 100年余の絆 (きずな) 日本とアルゼンチン いま 新しい連帯

# 100年まえの主要紙にみる

今井圭子 上智大学教授

## 条約締結の背景

1898年2月3日、日本がアルゼンチンと修好通商航海条約を締結して100年が過ぎた。日ア両国の恒久和親と自由な通商、航海関係の樹立を取り決めたこの条約は、当時の日本が切望していた平等条約であった。1854年の日米和親条約調印以来、欧米諸列強との不平等条約に苦しんできた日本は、甚大な犠牲を払ってその改正に孤軍奮闘してきた。そうした苦闘の中にあって最初の平等条約を締結することになったのが1888年メキシコとであり、その後日本はラテンアメリカ諸国に対して平等条約締結のための活発な外交交渉を展開していった。その試みは1898年までにペルー、ブラジル、チリ、アルゼンチンとの平等条約の締結となつて実を結んだのである。

ところで日本からもっとも遠く、地球の裏側に位置するアルゼンチンにおいて、当時の日本はどのように認識されていたのだろうか。幸いアルゼンチンには130年にわたつて発行され続けている主要紙『プレンサ』と『ナシオン』があり、その中で報じられた日

9月殿下のお母さま、皇后陛下がインドで催されたIBBY(国際児童図書評議会)の第26回世界大会で基調講演をされたVTRである。「子供時代の読書の思い出」と題するご講演(ビデオ)は、深く胸をうつ50分に及ぶお話で、いまや各界で大変な評判になっている。現地の日系人社会からも是非拝聴できぬものか、との要望が寄せられている。

本企画では、このVTRをNHKソフトウェア社でアルゼンチン用のPAL-N方式に変換し、ビデオとビデオデッキ10台、さらに林屋永吉元スペイン大使の翻訳によるスペイン語のテキストを文庫に贈呈することになった。

さらに学院からの要請で、児童用の西和辞典の編纂費用の一部として6千米ドルを助成することとした。

こうした企画の中心課題は、この文庫へ秋篠宮さまのお名前が頂けるかどうか、であった。元駐アルゼンチン藤本大使、山本大使同玲子夫人のご尽力により、「宮さまのご内諾」を異例の速さで頂くことができた。秋篠宮さまのご熱意に、東京とブエノスアイレスの関係者が、ともに感動する一場面があった。

「秋篠宮文庫」の創設資金の一部は、日本アルゼンチン修交100周年記念事業組織委員会の余剰金の一部が当てられた。

当協会は近く「秋篠宮文庫委員会」を設立し、今後の維

持、運用への協力体制を整備することとした。当面の事業として、つぎの企画をすすめている。

- ① 皇后陛下の基調講演 VTRに、スペイン語のスーパーインポーズをつけたビデオを作成し、この記念文庫に寄贈する。
- ② 児童用中古図書の寄付をうけ、現在アルゼンチン大使館で保管されている埼玉県から日ア学院ほか在ア日本語学校へ寄贈されるカセットテープと図書とともに(株)商船三井のご好意(海上運賃全額割引き)により、現地にコンテナ輸送する。

すでに秋篠宮さまは、この文庫にご自身(理学博士)の研究図書などを寄贈されるご意向を洩らされており、学院と関係の深い茨城県の長田小学校は先般の中古図書2千冊につづき、今回多くの日本語中古図書の寄付を企画している。

「秋篠宮文庫」は、当協会員一同が参加するプロジェクトであり、アルゼンチンならびに両国の将来への、われわれの熱き想いの象徴的存在になるであろう。われわれの手で暖かく見守り、強力にサポートして行きたいものだ。会員の方々に「日本語児童図書(新刊、中古)」の寄付をお願いします。

この記念すべき文庫のオープニングは、秋篠宮さまの誕生日である11月30日が予定されている。

(野村秀治 専務理事)

# アルゼンチン 日本観

本に関する記事から19世紀末ごろの日本観を浮かびあがらせてみよう。

## 日本人を高く評価

まず驚くのは日清戦争当時の日本に関する報道量の多さである。かなりの頻度で掲載される記事は戦況報告から日清両国内の諸情勢、それらに対する欧米諸国の動きなど実際に多方面に及び、その中には日本に関する詳しい解説記事も含まれている。当時大きな関心を集めたのは小国日本が大国清を破った勝因であり、両紙とも日本の軍事力、軍隊組織、戦闘方法に関する詳しい記事を掲載し、徴兵制から公教育における軍事訓練までやや誇張を含めて紹介している。そして最大の勝因は国の統治力と軍の組織力、兵士の士氣にあり、これは何よりも国民の愛国心と高い教育普及率によると結論づけて、それらのいずれもアルゼンチンがもって範とすべき教訓であると諭している。

## 『ナシオン』の報道

とくに『ナシオン』は日本をきわめて高く評価し、日本

人は「イギリス人のように勤勉で商業に優れ、裕福で海に雄飛する民族であると同時に、またフランス人のように貶術家で礼儀正しくかつ芸術的である。歴史を顧みれば、この国の潜在力は実に測り知れない程輝かしく、その歴史は中世イタリアのように煮えたぎっている。この国は今日拡張政策に適した状況にあり、18世紀イギリスのように、たくましい国民と賢明で勤勉な貴族に恵まれている」(『ナシオン』1895年4月15日)と大変な誉めようである。そして日清戦争をイスラエルの王ダビデと巨人ゴリアテの戦いにたとえ、清国に勝利した日本は疑念をさしはさむ余地なく欧米先進諸国の仲間入りを果たしたと報じている。

## 『プレンサ』の論調

それに対して『プレンサ』も似たような報道をしているが、少数意見と断って次のような興味深い論説ものせている。すなわち「清国を無知と野蛮を代表する国として、また日本を現在の紛争における文明化の担い手としてみる先入観」(『プレンサ』1894年8月12日)はいずれも適切でない。家族共同体という共存の思想に根ざす清国の社会は、社会的ダーウィニズムに基く競争原理で敗者を淘汰するヨーロッパ社会がもたらす軋轢を回避するすぐれた仕組をもっている。「日本が極東アジアにおいて、おそらくイギリスが

旧世界で演じているような重要な役割を果たすようになるであろうことは疑う余地がないが、それは同じ人種で、かつ隣人である天子の子孫たちを蔑む理由にはならない」(出所同前)、と。

## 条約締結を促す

このように日清戦争当時すでに日本は欧米先進諸国に肩を並べ、極東アジアのリーダーになるとみられており、それが日亜修好条約の締結を促す重要な要因となった。新聞報道や国会審議にみられる同条約締結への反応は全般的に好意的で、また両国関係の主軸は貿易に求められていた。ところがそれに対して他方では日本からの移民受入について国会審議で消極的な意見が出され、従来からのヨーロッパ移民奨励策を堅持すべしとされた。それは異なる人種は各自自らに適した国づくりをめざし、その上で相互に国情のちがいを尊重した国交をとり結ぶべきだとする、当時のアルゼンチンにおける支配的な考え方を反映していた。その頃アルゼンチンにはごく少数の日本人しかいなかつたが、その後徐々に後続移民が来亜し、その互いに助け合う誠実かつ堅実な生活ぶりで歓迎された。彼らはアルゼンチンにおける日本観、日本人観の形成に好ましい影響を及ぼし、日亜両国の友好関係を支える橋渡しの役を担つたのである。

# インタビュー<この人> キアラディア新大使 日ア貿易促進に意欲

河崎 勲 元NHKアルゼンチン支局長、当協会理事

—非常に優秀な外交官だという評判が伝わってきています。

大使：からかっているんですよ。これまでの心に残る仕事ですか？日本に入る前、軍事衝突まで行っていたペルーとエクアドルの国境紛争解決のための4か国委員会のアルゼンチン代表として寝食を忘れるほどうち込んで仕事をしました。3年間、交渉、調停、説得を続け、1998年に国境を画定し、平和協定調印に至りました。両国独立以来の長い紛争に終止符を打つ、私の外交官生活の最大の仕事でした。

日本人より小柄ながら、きりっとした風貌と洗練された身のこなしは爽やかな印象を与える。民間会社勤めや大学教授の経歴を持つ異色の外交官で、ワシントン、オタワ、ボン、フランクフルト（総領事）、国連次席代表など海外勤務が長い。

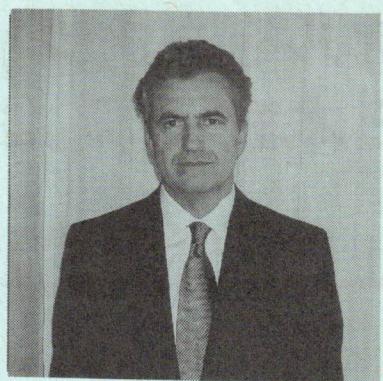
大使：日本勤務は希望しました。日本は機械、資本財をアルゼンチンに、アルゼンチンは食糧を日本に輸出できます。口蹄疫がなくなり新鮮な牛肉

を輸出できることになりました。東京では、経済外交を第一とし両国の貿易促進につくしたいのです。夢は、誰かが作ってくれる東京のアルゼンチンレストランでワイン、ステーキとタンゴ・フォルクローレを楽しむことです。

大使：日本料理は、刺身、そば、うどん、焼鳥が好きで、一番の好物はてんぷらです。大使公邸でよく作ってもらいます。自分では、たまにパスタ料理を作ります。アラビアータが得意です。

大使：14年前国際会議の帰途休暇を取って初めて東京を訪れた時、一人でどこかの大通りに面したビアホールに入りました。ドイツ風の広い店内で日本人がジョッキを前に談論していました。とても楽しくてもう一度行きたいとずっと思っていました。場所もよく思い出せませんが、落着いたら自分の足で探し出すのが楽しみです。

社会人、大学生の2男2女は故国に残し、夫人を伴って東京に赴任してきた。



アルフレド・ビセンテ・  
キアラディア

Alfredo Vicente  
CHIARADIA

## 職歴：

- 1987年 外務省 国際経済関係局長  
1988年 外務省官房長  
1989年 国連アルゼンチン次席代表  
1994年 外務省 国際経済貿易次官補  
1996年 外務省ラテンアメリカ政策  
次官補  
1999年 駐日アルゼンチン共和国  
特命全権大使

## 学歴：

- 1968年 プエノスアイレス大学 政治  
経済学士  
1970年～1973年 アルヘンティーナ・デラ・  
エンプレッサ大学教授  
(専門：経済理論)

## 言語：

英語、フランス語、ドイツ語

# 政治・経済動向速報

小林晋一郎 東銀リサーチ・インターナショナル研究理事

1999年10月24日に予定されている大統領選挙でメネム大統領は昨年7月、出馬しないと宣言した。しかし最近では、メネムは3選出馬の是非を問う国民投票の実施に賛同している。メネム大統領の3選出馬については野党は当然であるが与党ペロン党内からも批判が強い。

米投資家ジョージ・ソロスはアルゼンチンでショッピングセンター9ヶ所に投資しているほか、アルゼンチン最大の地主で46万8,800ヘクタールの土地を所有、牛14万頭を飼育している。バリロチエの高級ホテルのジャオジャオやブエノスアイレスのホテル・インターハンチネンタルにも投資している。最近、ロサリオ市で新たにショッピング・センターに1億ドルの投資計画があることを明らかにした。

上院議員でメネム派と見られていたオルテガ(前ツクマン州知事)は大統領選挙でデュアルデ(ブエノスアイレス州知事)と組んで出馬することを表明した。デュアルデが大統領候補、オルテガが副大統領候補となる組み合わせである。

1999年2月15日、ブエノスアイレス市南部の配電会社エデスルの第二次変電所火災が原因で10日以上の停電が発生した。真夏の下、住宅・商業地区で50万世帯が被害を受け、市民の怒りは配電会社と電力事業の規制監督に当たっているエンレに向けられた。冷蔵庫が使用不能、水がなくトイレや台所が使用できず、レストランや食料品店では食料が腐敗するなど市民の蒙った被害は大きい。エデスルは補償金の支払を開始したが今後、罰金や損害賠償の訴訟が出てこよう。電力会社は民営化されエデスルのオペレーターはチリの電力持ち株会社のエネルシスである。

問した。チャールズ訪問に反対する過激派と警官隊との衝突があった。

ブラジル・レアル切り下げで為替不安の下、アルゼンチン中銀総裁はメネム大統領の支持でドル化構想を公表した。ドル化の理由として、為替切り下げ懸念から生ずるペソ金利の高止まりの解消を挙げており、ドル化により金利の低下、投資促進、経済成長率の引き上げ効果があるとしている。ドル化のプロセスとして、米国との通貨協定の締結の上で、ドルを法定通貨としペソからドルへ移行する構想を示している。

1999年1月20日、石油会社YPFの政府保有株14.99%の入札が行なわれ、レプソル(スペイン)が1株当たり38ドル、20億100万ドルで単独応札し落札した。レプソルは本社社長をYPF役員として送り込み将来、レプソルとYPFの合併構想を明らかにした。YPFは1993年に株式を内外証券市場で売却、民営化された。

1999年1月のブラジル・レアルの切り下げのアルゼンチン

# いま「シャンパン・タイプ・ワイン」がブーム

野村秀治 専務理事

への波及を懸念し、アルゼンチン工業連盟は政府にブラジル製品の関税引き上げや輸入枠の設定などを陳情しているが、政府はこれら措置を回避、ブラジルの輸出補助金の廃止などをブラジルに要請し問題を解決しようとしている。リアル切り下げでブラジル製品がアルゼンチンに溢れている状況ではなく、ブラジルの為替切り下げと緊縮政策によるブラジル経済の景気後退から自動車の対ブラジル輸出が激減するなどアルゼンチン工業界は生産調整と雇用調整を行なっている。メキシコ通貨危機時に見られた外貨の流出や銀行預金の減少はなく、アルゼンチン銀行システムの健全性と通貨制度カレンシーボードを市場が評価したものと言えよう。

1998年の輸出額は258億5,600万ドル(前年比2%の減少)、輸入額は314億3,700万ドル(前年比の3%増加)で貿易収支は55億8,100万ドルの赤字で前年比28%の増加であった。輸出は数量で10%の伸びであったが価格が11%下落、輸入は数量が8%の増加で価格は4%の下落であった。

若者たちの間で静かなブームになっているシャンパン。ちょっと貴族的で官能的な雰囲気を醸し出す「おしゃれな食前酒」。欧州・南米つまり旧き良き西欧文化に接した海外経験のあるカップルのディナーは、シャンパンから始めるという。日本でも結婚披露宴の乾杯にシャンパンが流行しはじめている。

しかし、この名前「シャンパン」は、フランスのシャンパーニュ地方産のワイン発泡酒にしか適用できない。他の地方のワイン発泡酒への適用は禁止されている。

アルゼンチンでは、この同じ発泡酒を「スパークリング・シャンパン・タイプ・ワイン」と呼んで発売し、いまブームとなっている。

アルゼンチン経済省発行の経済速報誌「エコノミック・アップ・デイト第9号」によると、ワイン発泡酒の国内消費量は毎年平均20%の伸び、昨年は1,600万リットルと1990年に比べなんと122%の増量を示している。さらに国外への輸出も伸び、この事業の営業成績は上々、事業への投資も増加の一途を辿っている。

このシャンパン・タイプのワイン発泡酒は白またはロゼー

のワインをベースにしているが、赤ワインベースのものもある。いずれの場合も、摂氏20度で最低4気圧の炭酸ガスの含有が法律で規定されている。

このワイン発泡酒の生産地は70%がメントーサ州に、22%はサン・ファン、8%はリオ・ネグロ州すなわちアンデス山脈の麓、アルゼンチンの西部地方にある。

シャンパンは名声、品質、官能を連想させる。古来、不思議な魅力を秘めている。

小売り価格の平均はリットル当たり7米ドルで75%は大店舗またはスーパーマーケットで販売されている。1997年における人口一人当たりの消費量は0.57リットル、アルゼンチンの経済が回復の兆しをみせ始めた1991年より80%も増加している。最近の価格の引き下げと品質の向上が消費を増大させ、甘口、辛口シャンパンと幅を広げたことも消費拡大に一役買っている。

アルゼンチンは国内生産の9%に相当する1300万リットルの外国産ワイン発泡酒を購入している。輸入は1993年に比べて12%低下し、一方リットル当たりの値段は10%上がっている。主な輸入先はチリー、スペイン、フランスでチ

# タンゴはなお燃えるか

加納定之 個人会員

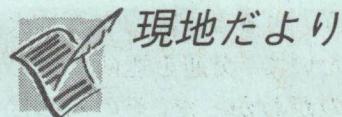
アルゼンチン・タンゴが今、色々話題になっている。会報23号で荻原正弘さんが詳述されているが、この一年に来日した本場音楽家のなんと多いこと。これに加えて日本人の演奏会も各地でさかんに開かれ、日本人ペアの踊りもみられるようになった。このうような演奏会で最近目立つ現象として一つはダンスをとり入れ、見て楽しいショー化するケースがふえてきたことと、もう一つは伝統的なタンゴを近代風に改革したピアソラの曲をとり入れる楽団のふえたことがあげられる。

日本でタンゴ演奏に初めて華麗なダンスを加えてショー化して見せてくれたのは1987年に来日したタンゴ・アルヘ

リ一産の増加がめざましい。

アルゼンチン・ワイン発泡酒の輸出は全生産量の2%に過ぎず、主としてお隣のウルグアイ、パラグアイ向けとベネズエラ向けである。

安くて、おいしくて、官能的なアルゼンチンのワイン発泡酒が、日本で流行るのはそう遠い先のことではなさそうだ。それにしても、「シャンパン」に匹敵する良いネーミングはないものか? みなさん、ひとつお考えになってはいかが?



現地だより

## すわ火事? 停電に抗議

相川知子

ブエノスアイレス在住

私はパレルモ地区に住んでいて、せいぜい、被害地区に住んでいる友人と連絡できないという程度の被害、ひとごとのように感じていた。そんな中、滞在型旅行者グループを連れてきた場合、ブエノスアイレスで何をしたらいいのかを調査する方が到着し、ご案内することになった。友人の新しくつくったTANGO学校にでも行こうと、タクシーに乗った。

クーラーのないのに乗ってしまった失敗したなと思いながら、目的地に向かうとき通るべき RIVADAVIA 大通りの CONGRESO (国会議事堂)付近は停電の中心地であり、混雑が予想された。それで、運転手に迂回を頼むと、向かって左の BELGRANO 大通り手前の MORENO 通りに入った。普段なら何も問題のない行き方なのだが、突然、火煙に遭遇、火事かとまた迂回を頼むが気づいた時はもう目の前で、ハンドルを左にきっても

らう。すると、雑誌などに火をたいて、交通を遮断していたのがわかった。その回りに腕組みした人たちが立っている。どうしてこんなことが…と思う前に曲がった道をまた、右に進もうとすると、火、火、火。お客様は「一体どうなったんですか?」と怯えている。私だってちょっと怖かったけれども、ようやく“多分、いま停電しているので…”“停電でどうして火が?”全く理由にならない説明だけれども、途中の消防自動車とミネラルウォーターを配る人々を見て、確信した私は次のように説明した。

“今は停電が一週間近く続いているんです。それで、憤慨した市民が火をたいて、デモ行動いでたのでしょう。”“停電だったら、どうして直さないの?また、火をたいてもどうしようもないんじゃないのか?”全くその通りなんだけれども、日本の論理ではわかつてもらえそうもない、この事態…。

本当に、近頃は電話は通じるし、郵便も届くし、多くのサービス機関はお客様のことを考えるようになったし、バス、地下鉄、電車などの交通機関も車体も美しくなった。日本から多くの滞在型の旅行者がきても、誇れるものとなっている。でも、やっぱり、こんなことが起こっても不思議ではないブエノスアイレス。



## 現地だより

# 30年代のマドンナタンゴ歌手逝く

らぶらた報知紙より

アナ・ルシアーノ・ディビスと言ってもピンと来ないだろうが、タニアと言えば、アルゼンチン タンゴ ファンなら誰でも「ああ、タンゴ歌手の一」と頷く。タンゴ名曲中の名曲「ジーラ、ジーラ」や「カンバラッヂ」で不朽の名を残したディセポロの伴侣として知られる。その彼女が3月17日夜、生涯を共にしたディセポロが息を引き取った同じ部屋で百年以上にわたる生涯を閉じた。スペイン・トレドの生まれ。幼くしてシャンソン歌手としてデビュー。彼女の最初の夫であるスペインの舞踊家アオントニオ・フェルナンデス・ロドリゲスと共にブエノス・アイレスで公演したのが1923年のこと。タニアメキシカンの芸名で活動、1926年ア国に定住した。その後、アオントニオ・ロドリゲスと別れ、ロベルト・フィルポやオスワルド・フレセドなどのタンゴ楽団でタンゴを歌うようになり、「フマンドエスペロ」、「センテンシア」な

どで売り出したが、彼女の名を不朽にしたのがエンリケ・ディセポロとの出会い。

ディセポロの「エスタノチエメエンボラチオ」を歌ったのが機縁で彼と知り合い生涯を伴にする事になった。それ以来タニアの生涯は、「ジーラジーラ」、「ウノ」などディセポロの作品を歌うことで貫かれている。歌手のみならず映画や演劇女優としての活動もディセポロから離れる事がなかった。1951年ディセポロが死んだ瞬間から、タニアは彼の「生きた思い出」と変じ、ディセポロ即タニア、タニア即ディセポロと不可分の存在となった。



# 第400回 オンブー会 ゴルフ記念 大会への ご招待



伝統のあるオンブー会も回を重ねて400回を迎えました。これを記念して菊池寛士会長より旧オンブー会会員の皆様にも是非参加して欲しいと招待状が来ております。

ふるって御参加下さい。

日時：6月10日（木）09:00  
スタート（前日の9日（水）  
はITUZAINGOにて練習  
ラウンド）

場所：MARTINDALE COUN-  
TRY CLUB、ブエノスア  
イレス

参加資格：オンブー会メン  
バーOBと同伴者

参加費用：6月9日と10日の  
2日間に係る滞在費とゴ  
ルフ代及び食事代等ブエ  
ノスでかかる費用はオン  
ブー会で負担。

本邦連絡先：横山稔（元日商  
岩井アルゼンチン会社社  
長）日亜交易（株）代表  
取締役  
TEL 03-3553-5561、  
FAX 03-3553-5557

申込み締切日は5月6日（木）  
まで。

## 文化行事

【※】は当協会員特別割引

### ■ 映画「タンゴ」(1998、 アルゼンチン・スペイン 合作)

日時：5月1日（土）～8日（土）  
11:00、13:20、15:40、  
18:00、20:20  
5月9日（日）以降  
11:30、14:00、16:30、  
19:00（金、土除く）  
5月9日以降の金、土  
11:00、13:20、15:40、  
18:00、22:20

会場：ル・シネマ（渋谷文化  
村）03-3477-9264

入場料：1,500円（前売）、  
1,800円（当日）

交通：JR、井の頭線、東横線、  
地下鉄銀座線、半蔵門線  
渋谷駅徒歩7分

後援：アルゼンチン共和国  
大使館

主催・連絡先：日本ヘラルド・  
フィルムズ映画（株）  
03-3248-1166（宣伝部）



### ■ フォエバー・タンゴ

日時：5月6日（木）～21日  
(金)

19:00 開演（月曜休演）  
8日、15日、22日（土）  
14:00 及び 18:00 開演  
9日、16日、23日（日）  
13:00 及び 17:00 開演

会場：シアターコクーン  
(渋谷文化村)

出演：フォエバー・タンゴ樂  
団（11人）、ダンス7組、  
歌ボーカル（1人）

入場料：S席 10,000円（税込）  
【※全席 9,000円（税込）】

交通：JR、東横線、井の頭線、  
地下鉄銀座線、半蔵門線  
渋谷駅 徒歩7分

主催：テレビ朝日

後援：アルゼンチン共和国大  
使館ほか

連絡先：青山エンタープライズ  
TEL 03-3404-9111（井本）

### ■ アルゼンチン国立民族 舞踊団

日時：5月18日（火）18:30  
神奈川県民ホール

6月9日（水）18:30 中野  
サンプラザホール

10日（木）18:30 東京厚  
生年会館

主な予定演目：「サルタの夜明  
け」「糸紡ぎ娘の踊り」  
「ポルテニョの隨想  
(タンゴ)」「パンパの遊

びとマランボ」「ラ・シータ」ほか

入場料：S席 6,800円

A席 5,800円

【~~6,120円、5,220円】~~

主催：MIN-ON

申込み：民音チケットセンター 03-3226-9999

(日本アルゼンチン協会会員である事を申し出る)

### ■ 小原みなみの華麗なる

#### タンゴ・ディナーショー

日時：6月3日（木）

18:30 ディナータイム、

19:20 ショータイム

会場：ホテルリッチ横浜

（5階 桂の間）

出演：歌 小原みなみ

演奏 岡本昭とタンギシモ

会費：17,000円（ディナーコース＆アルゼンチンワイン）

交通：JR、東横線 横浜駅

西口より徒歩5分

連絡先：045-712-0066

申し込み：オフィス小原

045-712-0097、

0903-904-7554

（小原 当協会員）

### ■ 「トリオ・カンタウトーレス」コンサート

日時：6月30日（水）

19:00 開演

会場：京都アバンティーホール

入場料：4,000円（前売）、4,500

円（当日）

【~~当協会員10%割引き】~~

出演：ギター ホセ・サンチス及びエクトル・ゴンサ

レス、バンドネオン  
キケ・ポンセ

曲目：カーニバルの香り、  
君とぼくだけ、花祭り、  
タンゴ・メドレーなど

後援：アルゼンチン大使館、  
(社) 日本アルゼンチン  
協会ほか

主催：日本ラテンアメリカ文  
化交流協会

Tel: 03-3310-3907

Fax: 03-3310-3256

### ■ タンゴ・オルキディア (山口蘭子のタンゴ)

#### 3RD ALBUM CD 発売

#### 記念コンサート)

日時：7月5日（月）18:30

開演

会場：ヤマハホール（銀座ヤマハ 6F）

出演：演奏 京谷弘司とキンテート・オルキディア、  
歌 山口蘭子、  
ゲスト歌手 近藤英一

料金：6,000円（全自由席）  
【~~5,500円】~~

連絡先：オルキディア

TEL 3572-0666

（18:00～23:00）

FAX 3471-0993

（山口 当協会員）

アキヤマ音楽事務所

TEL 3369-0616

### ■ 清水百合のアルゼンチ ン・タンゴナイト

日時：8月6日（金）18:10

開演 及び 19:40 開演

会場：日比谷シャンテ（B2F  
シャンテ プラザ）

演奏：ピアノ岩崎浄之、  
バンドネオン尾澤昌仁、  
シンセサイザー岩崎圭子

出演：歌と踊り 清水百合  
(当協会員)

入場料：各ステージ3,000円  
(セットメニュー付) 【~~2,850円】~~

交通：JR有楽町駅、日比谷線、  
千代田線の日比谷駅下車  
連絡先：090-3918-4576  
(しみず)

### ■ イロコの「タンゴ・ ダンス・レッスン」

元麻布にあるアルゼンチン大使館の小ホールで、5月より毎月第一水曜日（5月は連休明け）に、わが国のタンゴ・ダンス・プロ第一号といわれる先生方によるタンゴ・ダンス・レッスンが始まる。キアラディア新大使の肝いりによる初めての試み。

初心者歓迎。

カップルで申し込みば、受講料の割引き制度があるのが特徴。

日程：5月12日（水）、

6月2日（水）、7月7日（水）

7:00PM～10:00PM

場所：アルゼンチン大使館、  
アウディトリオ・ルーム  
港区元麻布2-14-14

指導：小林太平、江口裕子先生

受講料：12,000円

（3ヶ月分前納、スナック・  
ドリンク付）

【~~当協会員5%割引き、  
カップル特別割引き10%】~~

申込み：的場博子

（03-3271-2170）

先着30名まで

# お知らせ

## ■ 第40回海外日系人大会の開催

日時：5月12日（水）10:00、  
13日（木）、14日（金）  
場所：九段会館（千代田区九  
段南1-6-5）  
参加費：10,000円（当協会にパ  
ンフレット有り）

交通：半蔵門線、東西線、  
都営新宿線九段下駅下車  
連絡先：（財）海外日系人協会  
(TEL 3357-8331)

## ■ 当協会事務所の移転

前号（23号）でお知らせの通  
り、予定通り2月27日下記に  
移転しました。  
(なお、旧事務所から徒歩120  
メートルの新橋第一ホテルの  
横ですのでお立ち寄り下さい。)

新住所 〒105-0004  
東京都港区新橋1-17-1  
新幸ビル3階  
電話番号 東京03-3501-4684  
FAX番号 東京03-3595-3932  
なお、番号は従来通りで変更  
ありません。

## ■ 総会の開催について

(社)日本アルゼンチン協会の  
第42回総会は来る5月21日  
(金)午後2時30分より、日比  
谷ダイビル（4階ダイビル（株）  
会議室）で開催予定です。な  
お、役員、法人会員及び個人  
正会員各位には別途ご案内申  
し上げます。

## ■ 会費の納入について

平成11年度の会費（法人会費、  
個人正会員費及び賛助会員  
費）につきまして、夫々請求  
書を会員各位宛に送付致しま  
すので、何卒納入宜しくお願  
い申し上げます。

## ■ スペイン語通信講座

スペイン語文章講座：スペ  
イン語作文の講座  
新聞を読もう：スペイン語圏  
の新聞を読みながら翻訳  
を練習

西語検定対策：スペイン語の  
検定試験を目指している  
人に

手紙入門：やさしいフレーズ  
でスペイン語圏の友人に  
手紙を

連絡先：(有) イスパニカ  
TEL: 03-3630-9711、  
FAX: 03-3630-9717  
(井戸 当協会員)  
〒135-0048 江東区門前  
仲町  
1-9-10 CASA MIA502

## ■ 1999年度会報編集委員

本年度の会報編集委員をつぎ  
の方々にお願いしました。み  
なさんのご意見、ご感想を当  
協会のみならず、委員の方に  
も忌憚なくお寄せ下さい。

（五十音順）

薄井 康雄  
(協会顧問、前専務理事)

河崎 勲

(協会理事、前テレビ・  
ジャパン・アメリカ社長)

小林晋一郎

(東銀リサーチ・イン  
ターナショナル研究理  
事、元東銀ブエノス支  
店長)

斎木 茂治

(大来財団日本評議委員  
会事務局長、元三菱商事  
ブエノス支店長)

中野 恵生

(個人会員、前三井物産  
常務)

西岡 稔

(協会理事、前ダイビル  
専務)

野村 秀治

(協会専務理事、元商船  
三井調査部長)

福島 穆

(NEC ロジスティックス  
取締役、前NEC ブエノス  
支店長)

藤本 芳男

(協会副会長、世界の動  
き社理事長、元駐アルゼ  
ンチン大使)

渡部 透

(協会事務局長、元駐ア  
ルゼンチン領事)

## ■ 紙面もリフレッシュ

本号より紙面をリフレッシュ  
しました。ご意見をどうぞ、  
お寄せください。お待ちして  
おります。

TEL: 03-3501-4684

FAX: 03-3595-3932

# 人事往来

(平成11年1月～3月)

## 来日

マルテーゼ外務省二国間経済関係課長

2月28日～3月9日 (外務省招待)

スパナシーニ国立東洋美術館館長

2月28日～3月10日 (日亞修好百周年記念セミナー出席)

ナバハス FIEL 主任研究員

3月1日～4日 (日亞修好百周年記念セミナー出席)

エスクデ外交官学校教授

3月1日～7日 (日亞修好百周年記念セミナー出席)

アルフレド・ヴィセンテ・キアラディア 駐日大使夫妻

3月3日 (着任)

ヒレス下院議員

3月20日～27日 (外務省招待)

レニコフ下院議員

3月20日～28日 (外務省招待)

ジャバリーニ・ブエノスアイレス市国際融資機関担当特別顧問

3月21日～31日 (外務省招待)

## 訪ア

なし

## 外務省人事異動

水上 正史 在メキシコ大使館参事官

(前中南米第一課長) 3月10日

越川 和彦 中南米第一課長

(前中南米第二課長) 3月23日

## 訃報

上田将雄理事 (川崎重工業(株)相談役) が2月15日逝去 (享年95才) されましたので、心からご冥福をお祈りします。

## 会員を募集中です

### 特典：

☆ 年4回、最新のニュースや話題を盛り込んだレベルの高い会報を無料配布

☆ 出版物の無料配布

1999年、『日本アルゼンチン交流史』(100年間の両国の交流をまとめた貴重な図書) を全会員に無料配布

☆ タンゴやfolklore演奏会等の催物の会員割引

☆ 会員アーティスト主催の文化行事の割引ご案内

☆ 当協会主催の催物ご参加 (実費徴収)、スペイン語教室 (開講予定) 授業料割引など

☆ 協会年会費：個人正会員 10,000円 (定款上総会の構成員、議決権有り)

賛助会員 5,000円 (議決権なし)

☆ 郵便振込口座：00120-6-581381、住友銀行日比谷支店 普通 215-99570

☆ 連絡先：事務局

Tel: 03-3501-4684

## あとがき

次号(25号)は7月中旬発行予定です。会員各位の投稿、ご意見をお待ちしています。

社団法人 日本アルゼンチン協会

発行人 野村秀治 編集人 渡部透

〒105-0004 東京都港区新橋1-17-1 新幸ビル

Tel: (3501) 4684 Fax: (3595) 3932